



いよいよ本番

本番当日、実行委員や団員、事務局の努力が実り客席は満員。2部構成による「ときめき市民コンサート」が開演しました。

オープニングは、フロールベルリッガーによるハンドベル演奏。幻想的な音色で、「涙そうそう」「荒城の月」など5曲が演奏されました。

続いて、仙台フィルハーモニー管弦楽団所属の4人がモーツァルトの「アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク全楽章」「もののけ姫」など、華麗な弦楽4重奏を披露。続いて、「主よ人の望みよ喜びよ」「木星」など、加藤詢子マリンバ・アンサンブルによるマリンバ3重奏の音色が会場に響き渡りました。

そしていよいよ、とめ市民合唱団の登場。客席からは「頑張れ！」という声援と拍手が送られました。

歓喜の拍手

ステージ上に団員が勢ぞろいすると、息遣いが聞こえるくらいの静けさに包まれ、会場全体に緊張感が走りました。

高橋さん指揮のもと、総勢110人が「水の里」を歌い上げると、客席から割れんばかりの拍手。そして「君をのせて」「大地讃頌」「ふるさと」

を続けて熱唱しました。

歌い終わると、その素晴らしい歌声に、観客から拍手と熱い声援が飛び交い、団員は充実感に包まれました。そして、4曲すべて歌い終わった達成感と安堵感に加え、予想をしていなかった「アンコール」の声に、団員の顔には笑顔が浮かんでいました。

アンコールは、団員110人と500人の観客が一体となった「水の里」の大合唱。この日一番の感動に包まれた瞬間でした。

市民が「ひとつ」に

コンサートは大成功に終わりました。純粹に歌うことが好きな人たちが集まり、目標に向かって苦労を共にしたからこそ「ひとつ」になれたといえます。

この姿は9つの町がひとつになった登米市にも重なります。わたしたち市民も市全体の将来を見据えて、力を合わせて「ひとつ」になれば、素晴らしいまちづくりがきっと実現できるはずです。わたしたち一人ひとりが登米市の「ハーモニー」を響かせる一員です。





①仙台フィルハーモニー管弦楽団所属の4人による華麗な弦楽4重奏②加藤詢子マリンバ・アンサンブルがマリンバ3重奏を披露③アンコールに応え観客とともに歌ったとめ市民合唱団④幻想的な音色のハンドベル演奏(フロールベルリンガー)⑤⑥メンバーの多くが市内の主婦で構成しているフロールベルリンガーの練習風景⑦⑧⑨⑩熱のこもった練習を重ねて本番に挑んだとめ市民合唱団⑪幅広い年代が合唱を通じてひとつになりました



■大きな発表会は今回が初めて

地元合唱団「赤いくつ」から6人参加しました。大きな発表会は今回が初めてなので緊張しましたが、とても楽しく歌えました。練習日の多くが夜7時からで正直大変でしたが、本番が大成功に終わってほっとしています。近いうちに皆さんとまた歌いたいですね。

佐々木静子さん・63歳
(豊里町・長根区)



■小さいころから音楽が大好き

小さいころから歌を歌ったり楽器を演奏するのが大好きで、学校では音楽の授業が一番得意です。学校の関係で練習を休んだときもあったので、本番はうまく歌えるかなとすごく不安になりましたが、成功してうれしかったです。これからもずっと合唱団を続けていきます。

及川和之君・14歳
(迫町・光ヶ丘西区)



■アンコールをいただいて感動

とにかく歌うことが好きなので、練習日が来るのを楽しみにしていました。一度も休まなかったことを誇りに思っています。アンコールをいただいたときは、とてもうれしくて感動しました。これからも大好きな歌を楽しく歌い続けていきます。

佐藤徳子さん・50歳
(中田町・本町畑中区)

